

2016年ブックハンティングに参加してみた

栄養学科 3年



10000 円のカレーライス:NPO で見つけた心のある物語
日本財団 CANPAN プロジェクト編
日本実業出版社
335.8||N71



まちの本屋:知を編み、血を継ぎ、地を耕す
田口幹人
ポプラ社
024.1||Ta19



ぱっちり、朝ごはん
阿川佐和子[ほか]
おいしい文藝
河出書房新社
914.68||A19



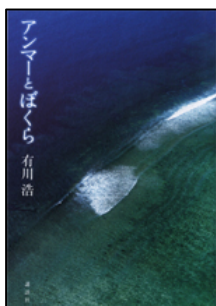
100 万分の 1 回のねこ
江國香織 [ほか]
講談社
913.68||E44

私がブックハンティングに参加するのは、これで2回目となります。今回はどうしても図書館に置いてほしい本があったために、ある程度選ぶ本を決めていきました。しかし今回は本屋に行って、見て、探して、気になって本を買おうと決めてブックハンティングを行いました。最近はドラマ化や映画化されたことがきっかけで世間に広く知られた本や、Twitterなどのネットで話題になっている本を買うことが多く、自分で本当に読みたい本を探す機会が減ってきていると感じていたため、ブックハンティングでじっくりと本を選ぶ時間が大変楽しかったです。予算を考えると文庫本を選んだ方がたくさんの本を選べるのですが、せっかくなのであえて文庫本以外の本にしようと思って選びました。

表紙の絵だったり、1ページ目を読んでみたり、どうしてその本を選んだのか理由はそれぞれ異なりますが、私が今回最も気になった本は題名に興味をひかれた「10000円のカレーライス～NPOで見つけた心のある物語」です。栄養学科で食についての勉強をしていくうちに、大学に入ってから食べ物が出てくる本や漫画、ドラマなどに興味を持つことが多くなったと思います。特にカレーライスは1週間に必ず1度は食べているほどの好物なので、この本は即決で選びました。この本はNPOで活動している方々の実際に体験したことの中で、特に印象に残っている物語を載せた短編集です。「10000円のカレーライス」はその中の話の1つでした。東日本大震災で被害を受けた宮城県石巻市にできた高校生が営むレストランでの話で、お客さんが自由に値段をつけて良いというカレーライスでのエピソードです。500円以下の厳しい評価もある中で、復興支援の仕事で石巻に来てくれていたある男性が、高校生の頑張りにと10000円もの値段をつけ



たんぼぼ団地
重松清
新潮社
913.6||Sh28



アンマーとぼくら
有川浩
講談社
913.6||A71



まほろばの夏
三萩せんや
株式会社
KADOKAWA
913.6||Mi17

てくれたとのことでした。その時のレシートは今でもカフェのカウンター裏に貼られているそうです。本を読み終わる時にはいつも自分だったらどうするだろう、どう思うだろうと考えます。お客さんとしてなら、おそらくカレーライスの相場とあまり安すぎたらかわいそうという思いから、味の良しあしに関係なく1000円位つけるのだらうと思います。しかし、自分が高校生で、500円以下の厳しい意見が多い中で1000円という値段をつけられたら、そのお客さんは味で判断した訳ではないのだらうと分かってしまうだろうとも思いました。なかなかうまくいかないもどかしい中で、10000円をつけてくださった男性は本当に高校生の心の励みになったと思います。被災地という状況関係なく、誰かの心を支えるのにはいろいろな方法があるのだと知ることができました。誰かがボランティアに行ったという話を聞いたり、募金している人の横を通り過ぎたりした時に、それは尊敬できる行為ではあるけれど、何もしていない自分に罪悪感を持ち、なんとなくすっきりしない嫌な気持ちになることがあります。今回の物語を読んで、今すぐ動かなくてもいいから、いつかの機会に、そんなカレーライスを食べた時に10000円出せるような人になれば良いと思って少し気が楽になりました。とりあえず、地元から近いので、帰省した時にでもカレーライスを食べに行こうと思います。

